



報道機関各位

資料提供

令和2年9月8日
課題名：イノベーション推進チーム
担当者：長谷川（達）
内線：3353
直通電話：082-513-3353

インド最大のインキュベーション施設「T-Hub」と パートナーシップを日本の自治体で初めて締結！ ポストコロナ時代における新領域の事業創出プログラム 「Road to Shine」の参加企業の募集開始！

第1弾連携事業 募集期間：令和2年9月8日～11月末日

1 T-Hub とのパートナーシップの締結(日本の自治体初！)

広島県は、イノベーションの源泉であるスタートアップの創出を強力に進めていくこととしており、本年7月、内閣府から、「スタートアップ・エコシステム推進拠点都市」として選定されました。今後は、海外のスタートアップ拠点等との連携も推進することとしています。

この度、州政府と地元大学等（インド工科大学ハイデラバード校等）の支援を受けて設立されたインド最大級のスタートアップ・インキュベーション施設「T-Hub」とパートナーシップを令和2年6月24日に締結し、第1弾の連携事業として、広島・インド共同プログラムのワークショップを開催いたします。これにより、日印のスタートアップ企業等とマッチング等を進めていきます。

是非とも、インド最大級のスタートアップ・インキュベーション施設 T-Hub と県の取組について周知・取材いただきますようお願いいたします。

2 連携事業の概要

インドで選抜されたインドチームと参加企業でタッグを組み、これからの人と物の移動をテーマに未来の社会のあり方について、ワークショップを開催します。

- テーマ：モビリティをテーマにワークショップ形式で開催
- 募集企業数：3社程度（各社3名程度で構成されるチーム形式）
- 開催場所：イノベーション・ハブ・ひろしまCamps
(広島市中区紙屋町1-4-3 エフケイビル1F)

- 言語：日本語・英語

※ 英語は必須ではありませんが、通訳の有無に関わらず最低限のコミュニケーションができるよう、少なくとも1名は英語が話せる方がいた方が望ましいです。

- 応募期間：～令和2年11月末日
- 申し込み方法：広島県ホームページより（申込フォームはチラシを参照）

3 ワークショップの予定(広島開催)

- ◆ 2021年1月12日（火）プレセッション「なぜいま広島×インドなのか」（1日間）
- ◆ 2021年2月15日（月）チームアップ／自社資源の捉え直し
- ◆ 2021年2月16日（火）デジタル・トランスフォーメーションを考える
- ◆ 2021年2月17日（水）未来の暮らしのビジョンと機会領域の研究
- ◆ 2021年2月18日（木）ビジョンとアイデアの策定
- ◆ 2021年2月19日（金）最終発表会

※詳しくは、広島県ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/ques/questionnaire.php?openid=1282>

4 プログラムの目的等

新型コロナウイルスにより世界が大きな変化を余儀なくされる中、ポストコロナにおける新たな事業機会も生まれています。こうした中で、今後は、特に、デジタル技術は来るべき社会の価値創造に欠かせない役割を担うことが予想されます。

本プログラムでは、GAFA(Google,Apple,Facebook,Amazon)などグローバル企業に多数の人材を輩出する IT 大国インドの優秀なスタートアップや学生とともに、既存の事業分野を起点に考えるのではなく、未来の社会を創り出す新領域の事業創出を構想するワークショップを開催します。イノベーション（新たな価値創造）を通じて競争力を高めようとする成長意欲の高い企業が、デジタル技術を活用した新たな事業創造の思考プロセスなどを体得できる絶好の機会となります。

【参考】

○「スタートアップ・エコシステム推進拠点都市」とは

：内閣府が、我が国の強みである優れた人材、研究開発力、企業活動、資金等を生かした世界に伍する日本型のスタートアップ・エコシステム拠点の形成を目指し、地方自治体、大学、民間組織等のコンソーシアム(当地域は、「地域イノベーション戦略推進会議／代表 広島県知事 湯崎英彦」)に対して、拠点形成を認定するもので、「グローバル拠点都市」が4か所、それに準じる「推進拠点都市」が4か所認定され、当地域は「推進拠点都市」に認定されました。

<https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/20200714.html>（内閣府プレスリリース）

○インド最大級のスタートアップ・インキュベーション施設「T-Hub」とは

：世界屈指のIT企業がこぞって研究所を設けているバンガロールに続く、インド第2のITキャピタル（首都）とも言われるハイデラバードにあり、インド中から選ばれたスタートアップが、世界中の企業や投資家と出会い、協業へと進んでいます。

ROAD TO SHINE

広島・インド共同ワークショップ・プログラムのご案内



AI や IoT の分野で世界でも有数の IT スキルを持つインドのグローバル人材とともに、
これからの社会と産業のあり方を考えてみませんか。 **テーマ：モビリティ**

応募対象 企業

- 募集企業数：3社程度
- 参加形態：各社3名程で構成されるチーム形式
- 言語：日本語・英語
※英語は必須ではありませんが、通訳の有無に関わらず最低限のコミュニケーションができるよう、チーム内に少なくとも1名は英語が話せる方がいらっしゃることが望ましいです。
- 主な形式：ワークショップ

申し込み 方法

応募期間：2020年11月末日まで

広島県ホームページの申込フォームよりお申込ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/ques/questionnaire.php?openid=1282>



PART 1

R2S イノベーション・チャレンジ (インド開催)

インドでも有数のスタートアップのインキュベーション施設「T-HUB」(本拠地:テランガナ州・ハイデラバード市)にて、インドにおける「人と物の移動」をテーマとしたイノベーション・チャレンジを開催。

二度のオンライン・ワークショップとメンタリングを経て、最終的に3つのインドチームを選抜します。

選抜チームは、来春広島で開催するR2Sワークショップにて、本プログラムの参加企業とともに、新たなソリューションを考案していきます。

- ◆ 2020年11月 一次選考会
- ◆ 2020年12月 二次選考会・入賞者発表

対象

T-Hubネットワークに所属する工学部専攻の
大学生・卒業生、アーリー・スタートアップ

年齢

30歳以下



PART 2

R2S 新領域の事業創出ワークショップ (広島開催)

参加企業1社ごとにインドからの入賞者1名とタッグを組み、これからの人と物の移動をテーマに課題の定義からソリューションのプロトタイプ、発表(デモデー)までを集中的に行います。

- ◆ 2021年1月12日(火) プレセッション「なぜいま広島×インドなのか」(1日間)
- ◆ 2021年2月15日(月) チームアップ/自社資源の捉え直し
- ◆ 2021年2月16日(火) デジタル・トランスフォーメーションを考える
- ◆ 2021年2月17日(水) 未来の暮らしのビジョンと機会領域の研究
- ◆ 2021年2月18日(木) ビジョンとアイデアの策定
- ◆ 2021年2月19日(金) 最終発表会



主催

広島県商工労働局イノベーション推進チーム

電話：082-513-3353

メール：syoinnov@pref.hiroshima.lg.jp

企画
運営

株式会社リ・パブリック

株式会社インフォブリッジマーケティング&プロモーションズ

ROAD TO SHINE

テーマ：モビリティ

アフターコロナ： 決定的なデジタルトランスフォーメーション時代が訪れた

2020年。私たちはこれまでに想像しなかったような年を迎えるに至りました。中国の一つの都市からはじまった新たなパンデミックは、産業から市民社会に至るまで、ありとあらゆる局面で大きな影響を及ぼしています。

パンデミックはこれまでも数年に一度のペースで発生してきました。SARS（2003年）やMERS（2012年）なども、アジアや中東を中心に多大な影響を及ぼしました。しかし新型コロナウイルスはそれらの感染力をはるかに上回り、いまや全世界で感染者数は600万人以上、死亡者数は40万人近くにも上ります（5月末現在）。

新型コロナウイルスが産業界にもたらした破壊的な影響については枚挙に遑がありません。しかし、その存在はまた、この20～30年にわたって飛躍的に成長したデジタル技術・サービスがいかに私たちの生活に不可欠な存在であるかをまざまざと実感させました。思えばSARSが発生した2003年には、iPhoneはまだこの世に出回っていませんでした（販売開始は2008年）。スマートフォンとアプリを介して「指1本で提供される」日用品や日々の食事、映画や音楽、商品やサービスの数々は、自宅で長時間待機を迫られた私たちの生活をあらゆる側面で下支えしています。日用品や食品、医療品などの物資は私たちの暮らしを支える上で必要不可欠です。かたや自動車の売れ行きは全世界的に落ち込みました。20世紀の街と産業を彩った一大産業は一つの転換点を迎えています。

これからはオンラインとオフライン、いずれかではなく、いずれもが隙間なく統合され、提供されるOMO（Online Merges Offline: オンラインとオフラインの双方が補完的に存在する状況）が加速していきます。オンラインとオフラインがなめらかに繋がり合うことで顧客により優れた価値や体験を提供できる産業構造やビジネスモデルが今後ますます求められるでしょう。同時に部品や材料を一箇所に集めて生産し、また世界へと分散させていく20世紀型の大量生産を基本としたサプライチェーンモデルも、大きく変化を遂げることが予測されます。



デジタルトランスフォーメーション最先端の国・インドとの共同プロジェクト

こうしたデジタルトランスフォーメーションは、広島県の産業の未来にどう影響していくのでしょうか。

多くの企業にとって変化の波は止められないものの、どこから始めたらいいのか、という思いもあるでしょう。市場調査、研究開発、人材育成など、変化にはさまざまな投資や選択を迫られますが、多くの企業には個別具体的に対策を講じる余裕はありません。

そこで、広島県の産業とデジタルトランスフォーメーションをより本質的に捉えて行動すべく、デジタル分野において第一線を走るインドとの共同プログラムを企画するに至りました。

グローバル企業を見れば、グーグルやマイクロソフト、アマゾンなど、多くの企業のCEO・CFOがインドから輩出されています。また、「GAFA」と呼ばれる企業のIT人材の多くもインド出身です。さらにスタートアップ業界では、ユニコーン企業（評価額10億ドル以上の未上場のスタートアップ企業）の数は世界第3位。日本でも普及し始めたPayPayに用いられているQRコード決済技術やホテル業界に革新をもたらしたオヨ・ルームなど、デジタルサービスのインフラ構築はインドとその人材抜きには語ることはできません。

また、インドは今や世界有数のデジタルトランスフォーメーション大国です。人口13億人の生体認証に基づいた国民総番号制度も整備を終えています。これにより、銀行口座を持たなかった貧困層に政府が一律に給付金を配布するなどの対策を講じることが可能になりました。

今回のプログラムは、こうしたデジタルトランスフォーメーションをごく短期間の間に経験し、自らこの領域を牽引するインドのIT人材と共に、広島にいながらにしてアフターコロナの社会を考えていく絶好の機会です。

ヘルスケア、交通、物流、製造、教育、不動産。ありとあらゆる人や物の動きかたが変わる今、すべての産業が転換点にいても過言ではありません。これからの人とモノの移動はどのように変化していくのでしょうか？そしてオンラインとオフラインを融合させながらモノやサービスをどのように作り、届けていくことが望ましいのでしょうか？

本プログラムでは、日本からは想像できない大国・インドのモビリティ事情（人とモノの移動）を、コロナによる影響を受けた最新状況も踏まえ、インドのIT人材と共に読み解き、創造の翼を広げていきます。

この秋、ぜひこの機会を逃すことなく、未来の社会とソリューションのあり方について考えてみませんか？
御社の参加をお待ちしています。